

【児童への話】

いよいよ3月に入りました。今週5日の木曜日は、節季でいう「啓蟄」となります。こんな漢字です。この「啓」の字は ひらく という意味、「蟄」の字は 冬ごもりしている虫 の意味で、合わせて、冬ごもりをしていた生き物が土などの中から這い出てくるような陽気、という意味の言葉です。この「蟄」はめったに見ない字ですが、『幸せに丸まった虫が地面の下で眠っている』と覚えておくと、意味も漢字も覚えやすいですね。この漢字が書ける人はそんなにいませんので、覚えて書けると、ちょっとお得かもしれません。

さて、今年度の学校での生活は残り3週間と少し、17日間程となりました。

卒業関係の行事としては、今週5日木曜日の「6年生を送る会」と、25日水曜日の『卒業式』が予定されています。そう、もうすぐ43人の優しい6年生は、この落五小を卒業し、4月からは中学生になるんです。1年生は、6年生にたくさんお世話してもらいましたね。2～5年生も、運動会や音楽会などの行事、かがやき班活動、クラブや委員会活動で、とても頼りになる存在だったと思います。でも、その6年生の、お別れのときが近付いています。

今日は校長先生が、いつも心に刻んでいる大切な言葉をみなさんに教えます。それは、「さよならだけが人生だ」という言葉です。

世界は広く、人間には寿命がありますので、どんなに好きで大切な人でも、いつかはお別れをするときが必ずきます。人間の一生は、さよならだらけです。だからこそ、今、一緒にいられる人たちとお話できること、触れ合えることに幸せを感じ、この一瞬を大切に生きようという、前向きな気持ちをもって日々を過ごして欲しいと、先生は思っています。この、「さよならだけが人生だ」という言葉は、先生の「座右の銘」、先生が一番大切にしている言葉です。

卒業に向けての取組は、チャンスが一度しかありません。これからの日々、6年生は自分たちの卒業に向けて、全力で頑張ってください。自分たちの卒業の日を最高の笑顔で迎えられるよう、懸命に努力する姿を見せてくれるのを楽しみにしています。

そして、1年生から5年生のみなさんは、6年生の卒業を全力でお祝いしてください。行事のときだけでなく、お掃除をして学校をきれいに保つことなども、立派なお祝いだと思ってください。学校全体で、6年生の素晴らしい卒業のために頑張りましょう。

今日は「さよならだけが人生だ」という言葉と、6年生の卒業についてお話ししました。

【本講話について】

早いもので、年度最後の3月に入りました。学習や生活指導の積み残しがないことはもちろん、子ども個々の成長を促し、令和8年度の教育活動への明るい希望がもてるような、充実した17日間としていきます。ご家庭、地域の皆様のご協力を、引き続きよろしく願いいたします。

本講話では、私の座右の銘「さよならだけが人生だ」を紹介しました。もとは唐の時代に 于 武陵（うぶりょう）が詠んだ詩『勸酒』を、井伏 鱒二 が現代語訳したものです。今、この一瞬を大切に感じ、人との豊かなかわりができる子どもを育てたいと考えています。また、座右の銘のような、人それぞれの大事な言葉の存在は、とても心を豊かにするものです。この機会に、お家の方のもつ大事な言葉について、お子さんとお話する時間をもってみるのはいかがでしょうか。